



U. ペンドリン先生
HAT 神戸キリスト教会宣教師

証し

私のうちは普通のフィンランドのクリスチャンホームです。両親は神様を信じていましたが、教会には、あまり行きませんでした。

赤ちゃんのうちに洗礼を受けて、子供のときから聖書に書かれた天の神様を信じていました。寝る前に母と一緒に祈りして、時々日曜学校へ行きました。

15歳ごろ教会のキャンプに参加しました。赤ちゃんのうちに洗礼を受けていたので、キャンプでもう一度、洗礼やキリスト教の内容を教えてもらって、その後の堅信礼拝で「私はクリスチャンです」という約束、つまり、堅信を受けました。その後教会の若者の集まりへ行くようになりました。けれども、聖書の話に興味を持っていても、もっと大切なのは友達と楽しんでいる

ことでした。高校に入るとき、教会へ行かなくなりました。その時一番大切なことは人生で楽しむことだと思っていました。毎日忙しくて、神様のことを考えるのをやめました。

高校を卒業したころ、毎日充実していても、自分の人生には何かが足りないと思っていました。心がなんとなく空しいような気がして、「私の人生の目的は何だろう」と考え始めました。その時あるゴスペルバンドが私の町へ来て、コンサートを聞きに行きました。コンサートで曲の詩やバンドのメンバーの喜びや平安に満ちて生き生きとした表情が私の心をつかまえました。そして、そのコンサートの歌を聞いている内に、心が虚しいと感じた理由はイエス様が心の中にいなかったからだということに気がつきました。その夜、寝る前にイエス様に「私の心の中に入って来て下さい」とお祈りしました。するとイエス様が入って来てくださいました。

その後外を見ても特に変化がありませんでしたが、心が変わりました。聖書で「私はお前たちに新しい心を与えて、お前たちの中に新しい霊を置く。私はお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与えます。」と書いてあります。何をやっても空しい、という思いがなくなって、心が平安で満たされて来ました。

イエス様を信じることによって私の人生に新しい目的が与えられました。神様が私を追って、私を愛して、私を導いてくださったということは私の励ましとなりました。良い時も、苦しい時も、イエス様がいつも共にいてくださいます。さらにイエス様を信じることによって永遠の命の希望も与えられました。私の代わりにイエス・キリストが十字架で死んでくださって、十字架によって私の罪が赦されたのです。イエスは言われました。

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。」その約束は私の人生の礎となりました。

数年後、聖書学校に入りました。そこで毎日聖書を読んでいたら、神様の約束を豊かに感じるようになりました。ヨハネの福音書では「神は、その独り子を与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」と書いてあります。イエスは神様からいただいたすばらしい贈物です。そのプレゼントは誰でもただでもらうことができます。わたしが日本へ来たのは、その神様の愛のメッセージを日本人にも伝えるためなのです。

(2011年)